

昨年、菅生丘陵のハイキングコースが台風被害を受けました。マウンテンバイカーのみならず、徒歩のハイカーも通行できない倒木が発生しました。マウンテンバイクのコースになる道は、マウンテンバイクの愛好者グループが定期的に見て回り、安全を確認しています。今回も度々紹介しているこのグループが倒木処理に立ち上がりました。



倒木・危険木処理は、とても危険な作業になるため、杉野もお手伝いで参加しました。いつもは、マウンテンバイクでスイスイ走るコースですが、チェーンソーや燃料を持ち、山道を歩いて、1本ずつ処理していくという、体力と手間のかかる作業の連続でした。



昨年の12月23日と今年の2月16日の2回で、作業はほとんど終わりました。

しかし、その後の春の突風により、新たな倒木被害が発生してしまいました。昨年の台風により、樹上で折れかけていた枝が、春一番などの強風によって、折れて落下したと思われます。

そのため、6月16日に追加作業を行いました。





6月16日は、南尾根と北尾根の2チームに分かれて、作業を進めました。今回で、3回目の倒木・危険木処理になりますが、作業に集まる彼らの原動力は、倒木が危険で、ここを利用する多くの人たちの「安全のため」が1番ですが、「自然を守るため」ということもあります。倒木をそのままにしておくと、そこを避けるように新しい踏み跡ができて道が広がり、今まで道から外れたところに生育していた草花が踏み荒らされることになります。倒木を片付けて本来の道を利用できるようにすることはとても重要なことだと彼らは話しています。このグループは、自然と共存するために、マウンテンバイクのハンドルを、チェーンソーのハンドルに持ち替えて、ハイキングコースの安全と自然との共存方法を模索しながら汗を流しています。

「自然を守る」と口で言うのは簡単ですが、彼らは、自分の体を動かしながら、実践の中で環境について考え、行動しています。菅生の森では「森を利用して、森を守り育てる人々」が育っています。次世代に森を引き継ぐ仕組みができつつあります。

